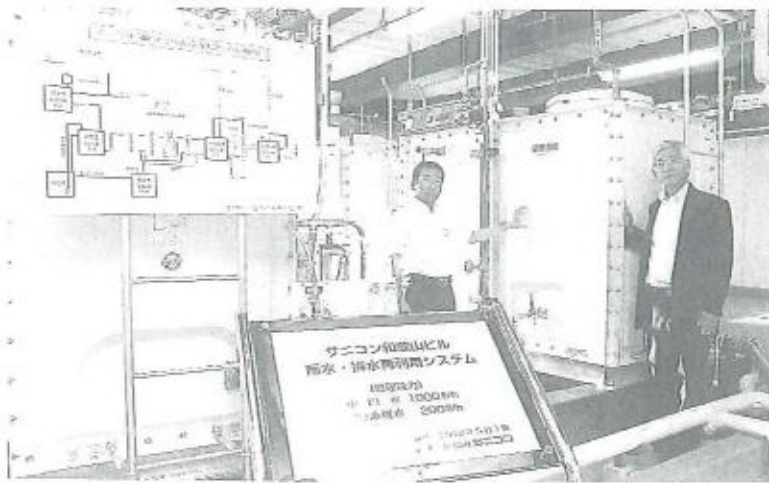


新社屋に排水再利用装置

和歌山「サニコン」が開発、導入



新社屋に導入された排水などを再利用するための浄化装置(和歌山市の「サニコン」で)

和歌山経済

設備メンテナンス会社「サニコン」(和歌山市松江北)は5月、新社屋(4階建て、延べ約940平方メートル)を建設した際、社屋にたまった雨水や排水を浄化し、トイレの洗浄水や散水に再利用するシステムを開発、導入した。水の無駄遣いをなくすように環境に配慮した取り組みで、市民の水への関心を高めたいとしている。

同社は、1979年に設立。マンションなどの集合住宅に設置された浄化槽や給水設備のメンテナンスなどを手がけている。新社屋を建設する際、これまで培

った技術を生かし、社屋で使ったトイレやキッチンの生活排水と雨水を浄化して再利用するシステムを開発した。

新しいシステムでは、生活排水を地下の浄化槽にためて、社屋4階の浄化装置までポンプでくみ上げるなどする。4階に二つの水槽を設け、排水をろ過し、色や臭い、有機物などを除去。トイレの洗浄水として使われる「中間水」を作る。さらに浄化し、不純物がほとんどなく、飲料水としても利用できる「処理水」も作り、洗車のほか、庭や屋根にまく水に使用している。

このシステムの処理速度は、中間水は1時間で10

00リットル、処理水は1時間で200リットル。災害などで水道が断水した緊急時にも、役立つという。

西賢太郎社長は「日本は水に恵まれており、危機感がありません。環境保全の意識を高め、水の大切さをアピールしていきたい」と話している。